

改正人國記

ル 3  
374  
4





門 3  
號 374  
卷 4

西海道九國 附二嶋

筑前

當國の風俗ハ大庭飾多し。人々各々心か

し。勇も一應不勤れも。怒る風ゆへ終不何の

も成就せ。但九列にめぼし。花奢の國か

し。酒色好人好。親津の風さあ。我たあ

に。ほむ人おちあ。ささふ。凡そ。甚不。蛇と

梅に。南風ハ雨をまて。山も亦多。風土温

秘し。暖多。古昔ハ。右宰府とて



西海道九國

附二嶋



九必の及候のな成ありて。是と西都ともい  
 ひし。船中博多の津ハ異國の船津ありし  
 故外の金より。風波かるともいし。人の生る  
 木をばたらふもて。物ごとくさやうなる者あり  
 むとをうはらき。凡ともいし。

### 筑前國圖



北



國言卷一



### 筑後

當國の凡俗ハ筑前より劣る。実義あるも常に義  
 理を謀じ。其失を治法し。費を惜で。言語小節  
 り鮮美然とも。下人ハ一涯ありて。理非を弁か  
 のすくなく。其神のみのことおほし。譬ハ其堅固お  
 ろし。鉄石よりとも。これハ鉄より非して。石のこ  
 其煉よりちりて。りきそニ交合よりありんじ  
 上たる者も。け風よか和ありとある一と云。  
 按に。尚玉筑前水津と云とも。入海と云けり。大

う山園たつあると故。風氣も別ちりといへ  
 えたるも。む温暖のありと。

### 筑後國圖





豊前

當國の風俗ハ譬ハ馬の如シ馬に名有るある曲  
 馬あり。色この毛あり。長たり。極みうらやしく  
 色不能るのど。法ども曲ある時ハ用か。能ふ  
 るに比れハ曲るのど。曲るに走あり。止あり。昨五  
 踏あり。其曲あり。中氣あるまされハけ國の風俗  
 ハ唯中氣の馬のどく。去矣。空や。た。々  
 意地あり。死生を論ずる場ふ。死りても。老を  
 不知も。あ。ね。ど。理を控て。命を惜。この。う。る。志。

おぼ。されハ。一旦の念よ。一命を控る者ハおれと  
 べ。心と。用。人。あ。い。ハ。互。凡。と。何。と。え。  
 按に。當。玉。ハ。長。門。向。に。當。り。其。後。筑。前。の。君。に  
 あり。玉。馬。と。え。り。た。法。に。一。曲。あり。形。の。國。  
 邊。境。の。西。也。民。風。忠。義。に。死。し。て。一。節。の  
 念。よ。控。や。ま。さ。し。の。義。け。む。に。う。ま。り。う。さ。り。  
 考。れ。と。も。け。國。古。の。人。義。戦。と。あ。り。忠。死。を  
 や。し。の。素。身。と。い。ふ。法。に。本。書。の。後。の。  
 凡。さ。り。や。



豊前國圖



豊後

當國の風俗ハ氣を稟所偏塞なるを以て其内  
 十が一も若に生たるハ偏居の内より出生ゆへに堅  
 固なるの比多し。扱聖徳太子の子をまびくと宣  
 へし出家せざるを。子縁断絶する事ありと。以て  
 人ハ此理を不弁しく。出生する子と。殺害する心  
 有。今も此風五々として。未だに存するも。其  
 如く。別て武家の風俗也。此適は偏を以て。其  
 如く。別て武家の風俗也。此適は偏を以て。其



とためんと魚つり人あり。正道不取りて不能して。  
或ハ邪智不迷ひ。徳病を多す人みえ。毎ハ理國  
のさあけ通ハありとそ。

按ふ。尚ふハ海嶽も多。山谷も多。大玉なるを  
晴氣の玉を造とも。日列をとり。山中ハ少きし。  
民俗本書に説き。その詳あり。中比大友の奥産  
とる。た。大槩お虫に不遠。風を多し。梅子と  
まびくと。尚ふに。尚ふに限る。九列の内不  
び風あり。う。ま。お虫に。聖徳太子の子と

まびくと。宣ひ。何の書に。縦お家  
を。解。人。まびくと。是。天。自  
然の人倫を。滅却するにあらずや。ま  
者子の父母。其子と。殺害する。夏夷  
狄禽獸。不。慈仁の。風。遠  
及。び。風。志。人。恐  
懼。て。回。生。受。に。と。懐。む。



豊後國圖





肥前

當國の風俗。山陰を合たるより。從勇氣ありて。武勇に至りて。義を知りて。ひたむきなり。後其國の風土を生じると云ふ。百人不入は風なまされ。は。そのおめり。さやうなり。武士の風程のめり。只湯和の志をまゝ。上を教下をめり。のみに金を挽り。孝は親なり。百姓町人男女も。不遊罪科あり。死にむと。毛以奈とおむ。象。凡そ八信州と同く。勢はた

ら。音聲野鄙多し。又人の和す。信州ハ及ぶべし。

按に。尚必ハ又必なり。対。尚必に隸す。多。風。少。の。形。め。あ。事。も。海。濱。お。ほ。山。も。又。多。し。尤。暖。必。なり。民。俗。本。嘉。祥。之。中。古。龍。造。寺。隆。信。の。氣。象。能。國。風。を。生。じ。は。た。る。と。有。馬。郡。下。松。浦。ま。と。八。遠。さ。が。さ。た。る。形。も。八。風。も。少。ハ。か。り。り。め。さ。べ。し。松。浦。郡。の。内。又。屬。し。五。嶋。ま。と。海。と。を。る。陽。と。

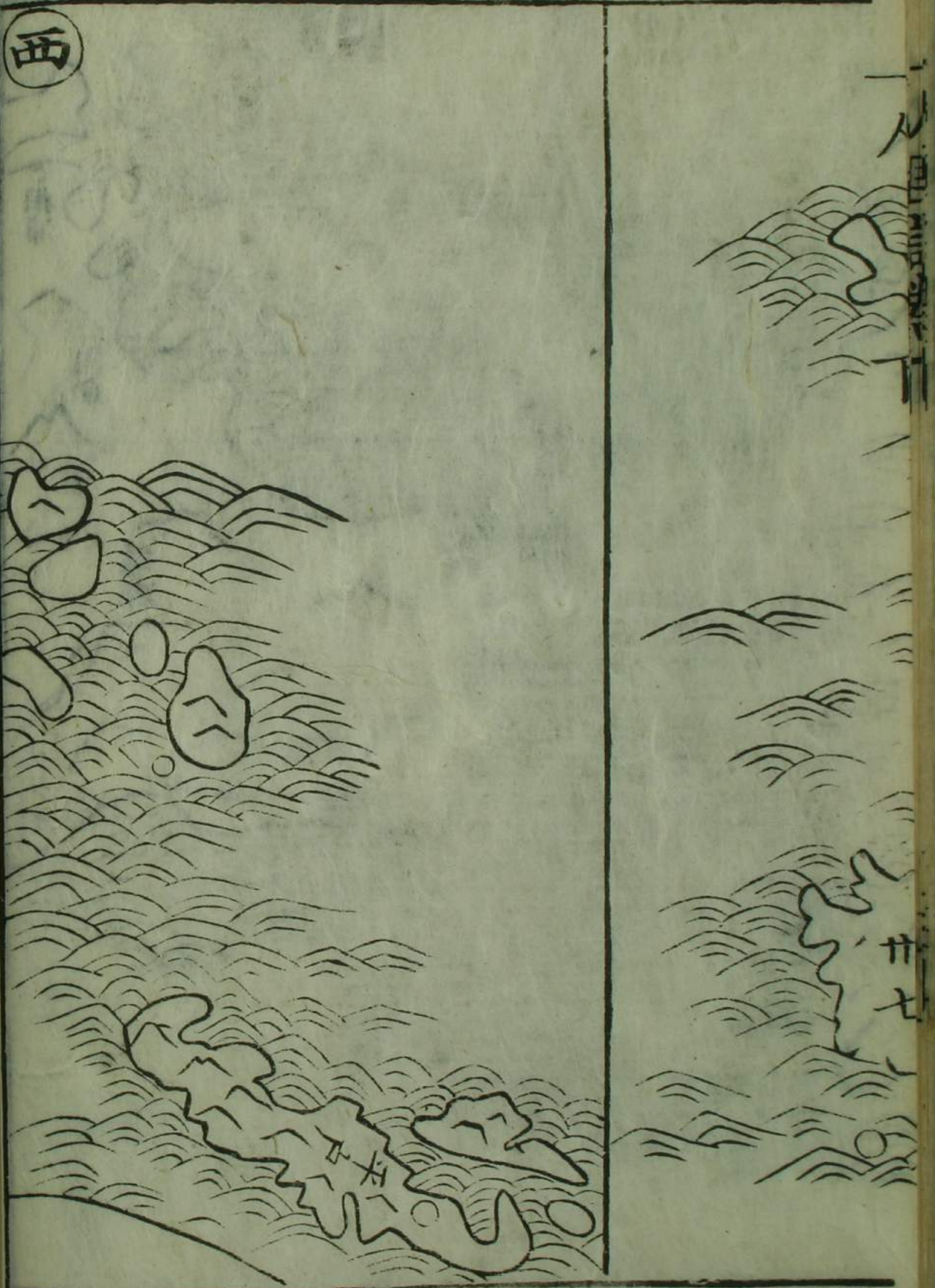
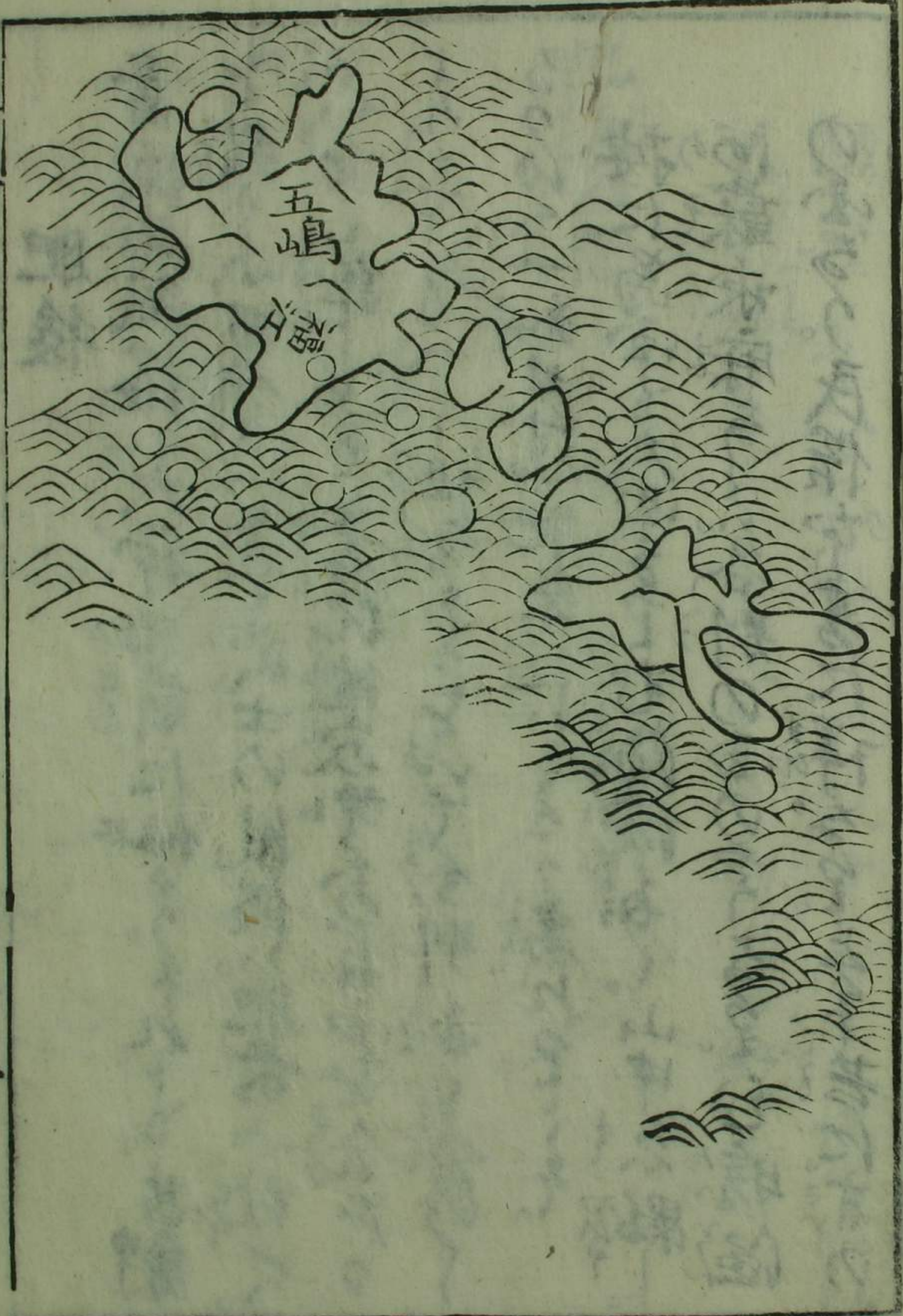


肥前國圖

風俗も聖神あり。長崎ハと異  
 邦の商舶入津の都會を以テ是レハ是レノ風俗物  
 されて勇猛のきまあり。









### 肥後

當國の風俗ハ大神肥前に似る。されども。甚勇  
 と教り少。百分一ならず。武士の風俗ハ肥前不  
 柔ならず。然し。其意化。彼が。あまふ。ふを合たり  
 よう。ととあるべし。但。無あるを。今別。多。多ひく  
 るるゆへ。一。私せず。肥前には。多。多  
 按に。為。由。大。由。なる。む。海。濱。多。く。山。中。多。夥。し。  
 阿蘇。束。麻。多。く。い。各。別。の。由。の。多。く。あ。る。と。む。暗。温  
 の。必。あり。民。俗。多。書。に。詳。なり。と。上。下。若。に。才。の

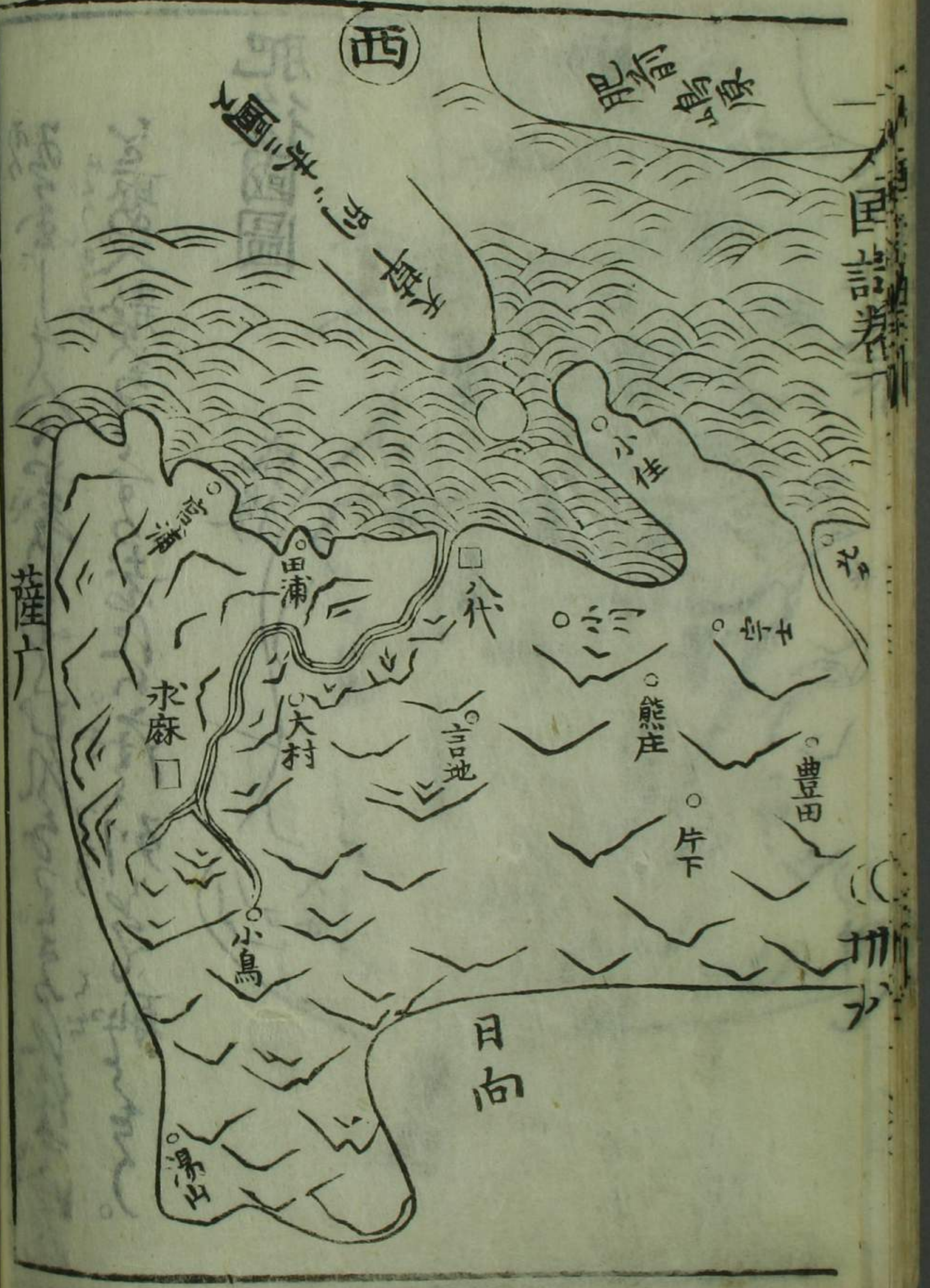
### 肥後國圖



み。玉。一。人。の。多。く。あ。る。と。む。海。濱。多。く。山。中。多。夥。し。  
 と。聚。め。入。勢。多。く。あ。る。と。む。暗。温

豊後



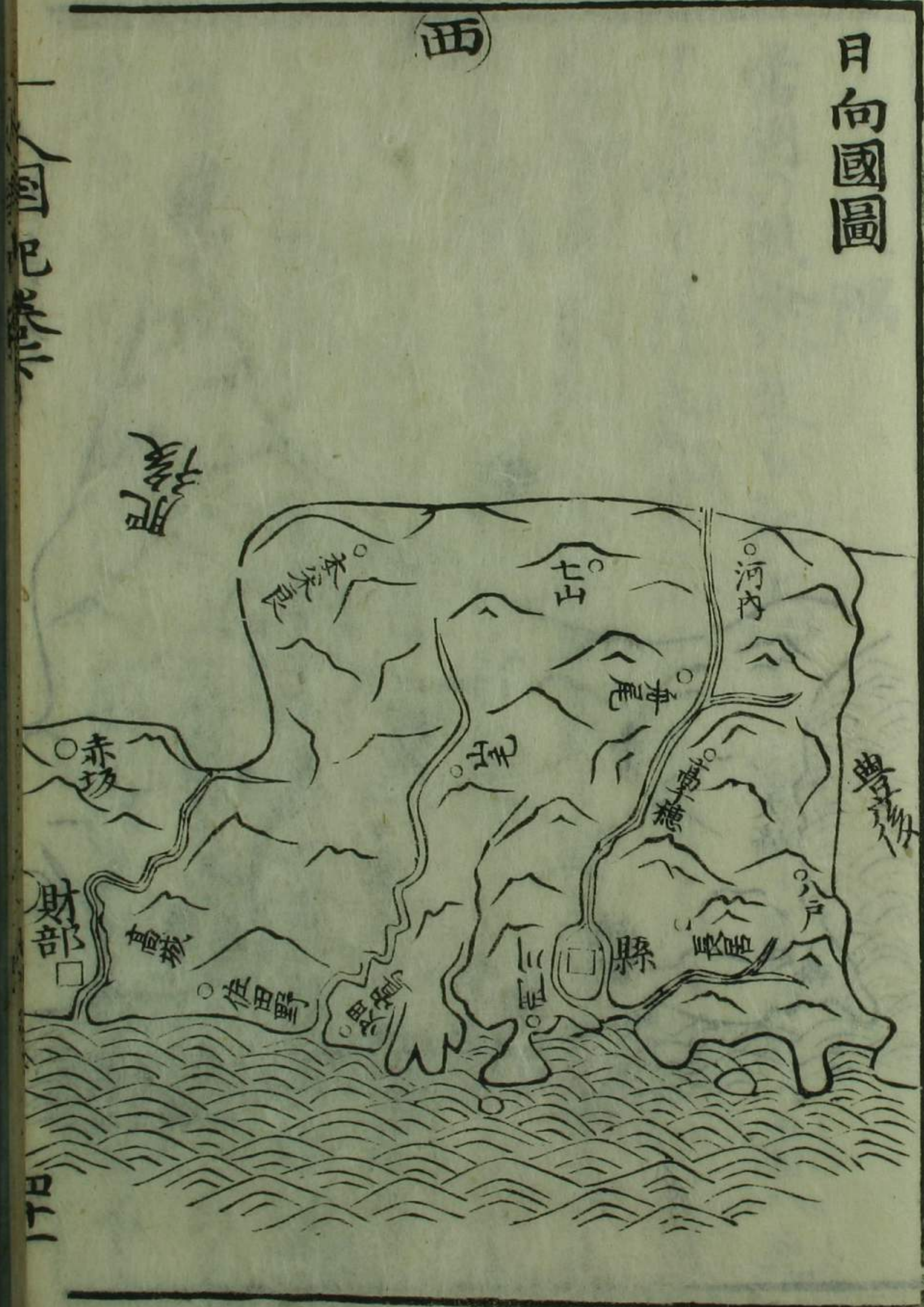




日向

當國の風俗ハ<sup>むたいむら</sup>を<sup>こと</sup>法<sup>の</sup>の<sup>こと</sup>変<sup>の</sup>の<sup>こと</sup>多<sup>く</sup>。只<sup>た</sup>氣<sup>き</sup>の<sup>す</sup>夾<sup>ま</sup>まる<sup>ふ</sup>任<sup>ま</sup>て<sup>お</sup>已<sup>れ</sup>り<sup>と</sup>。時<sup>とき</sup>人<sup>ひと</sup>非<sup>ひ</sup>と<sup>ふ</sup>人<sup>ひと</sup>あり<sup>と</sup>。其<sup>その</sup>法<sup>は</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>は</sup>後<sup>のち</sup>不<sup>ふ</sup>及<sup>ば</sup>ず。只<sup>ただ</sup>主<sup>しゅ</sup>に<sup>て</sup>人<sup>ひと</sup>の<sup>し</sup>道<sup>みち</sup>を<sup>し</sup>不<sup>ふ</sup>志<sup>し</sup>と<sup>す</sup>。欲<sup>ほ</sup>く<sup>は</sup>三<sup>さん</sup>不<sup>ふ</sup>を<sup>も</sup>と<sup>す</sup>。唯<sup>ただ</sup>死<sup>し</sup>を<sup>こ</sup>心<sup>こ</sup>て<sup>し</sup>。是<sup>こゝ</sup>に<sup>て</sup>凡<sup>たゞ</sup>俗<sup>ぞう</sup>を<sup>し</sup>。按<sup>あた</sup>に<sup>て</sup>南<sup>みな</sup>の<sup>の</sup>風<sup>かぜ</sup>土<sup>つち</sup>海<sup>うみ</sup>濱<sup>はま</sup>皆<sup>みな</sup>く。又<sup>また</sup>山<sup>やま</sup>中<sup>なか</sup>深<sup>ふか</sup>く<sup>も</sup>大<sup>おほ</sup>く<sup>も</sup>あり<sup>と</sup>。を<sup>も</sup>暖<sup>ぬ</sup>氣<sup>き</sup>多<sup>く</sup>。

日向國圖



日向國

四十一





### 大隅

當國の風俗ハ。是も死を以て表す。男子たる者ハ死  
 する道とおぼえ。五常ハ一區外のものとおぼへ。佛法ハ死後  
 の法を以て。生死のあふを憂と自見して。常も主  
 下の化法もあてなく。ことと云名のをを忌。福を受り  
 とことと云へ。百姓ハ地味とのをえて。不礼の行法奉  
 て云に不足なり。戦場不控て。死するも。忠義の節  
 義のと云工まあ。戦小勝てハ。死をばなすまづとのこ  
 是ゆ。義年の時ハ。主人危死するに。従者勝を



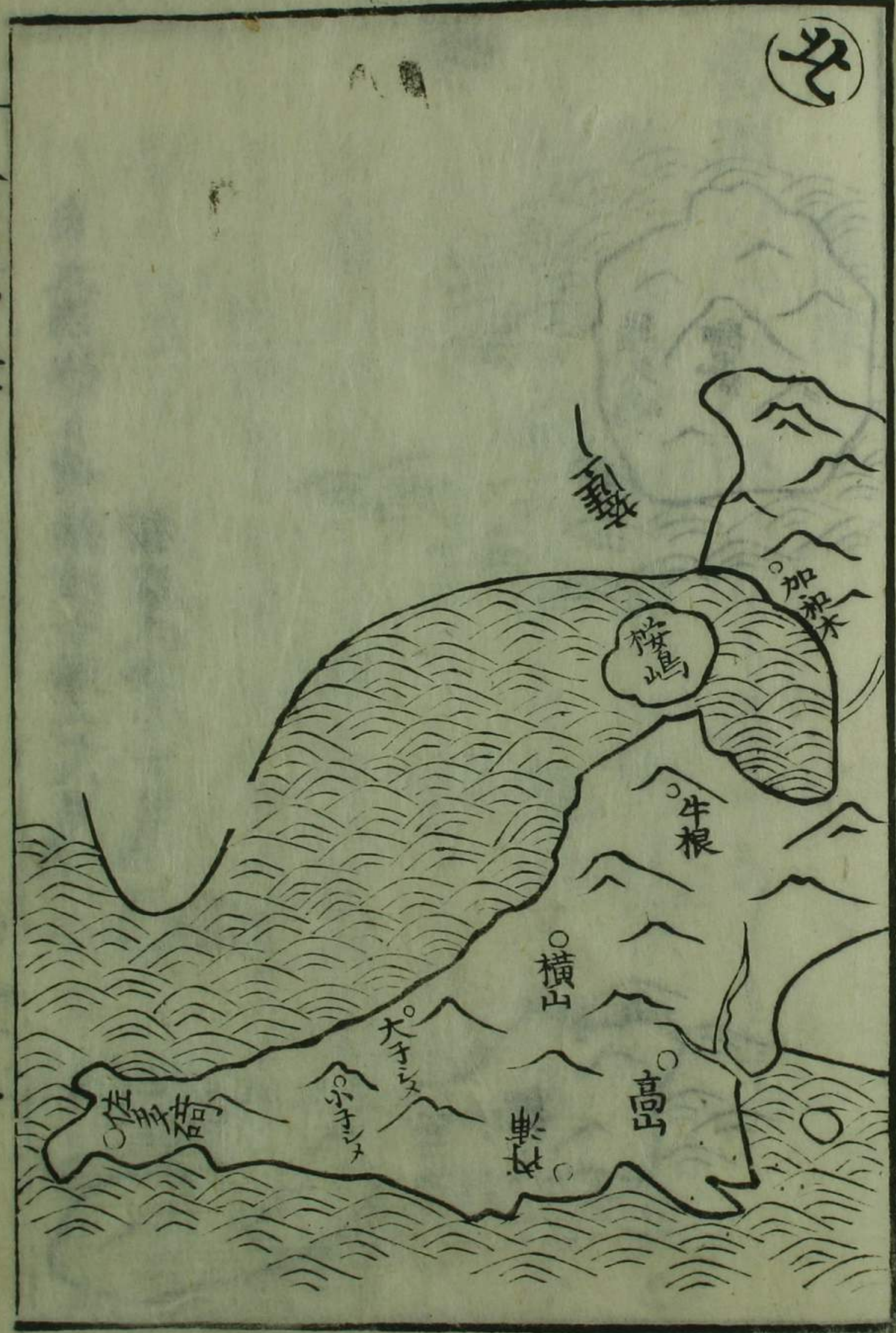
或ハ是とのく。直後難後する勢のり。ほおほ。  
未代とも。け風あるへ。とと。

按に。尚玉山を降りて。浦中へ。おたる玉を。  
種子治屋久の治と云。南海の大治に属す。  
を暇玉なり。民俗本書に詳あり。

大隅國圖



そ





自大隅佐多碕指種子海上十八里巽  
指屋久海上二十里南



薩摩

當國の風俗大隅亦少も遠よりありとそ。

按に當國ハ大隅の亦ハ海を隔て北ハ深山を  
 負西海を受たり由りて甌洛長良海九嶋亦  
 とつ海を隔て南西の隸る王琉球も南西  
 所庸に四時の子勝あり。民俗本書に之を  
 之く剛強なる生倭今の世に之を承りて強あり。  
 常に床の上に病死するを憾として殺伐の場  
 に死を遂るを自以て本意とす。子孫もこれを



榮名を乞ふ。此令の恩子の戯遊小初くもあめ  
 芳と恥辱と。其父これ又死をすもむら野のす  
 おほしとそ。故に死を恐れるハ勇猛なれども。  
 理ねを勤弁なきふと迷憾あらず。活まの  
 凡俗尤もく形うめをく。

薩摩國圖

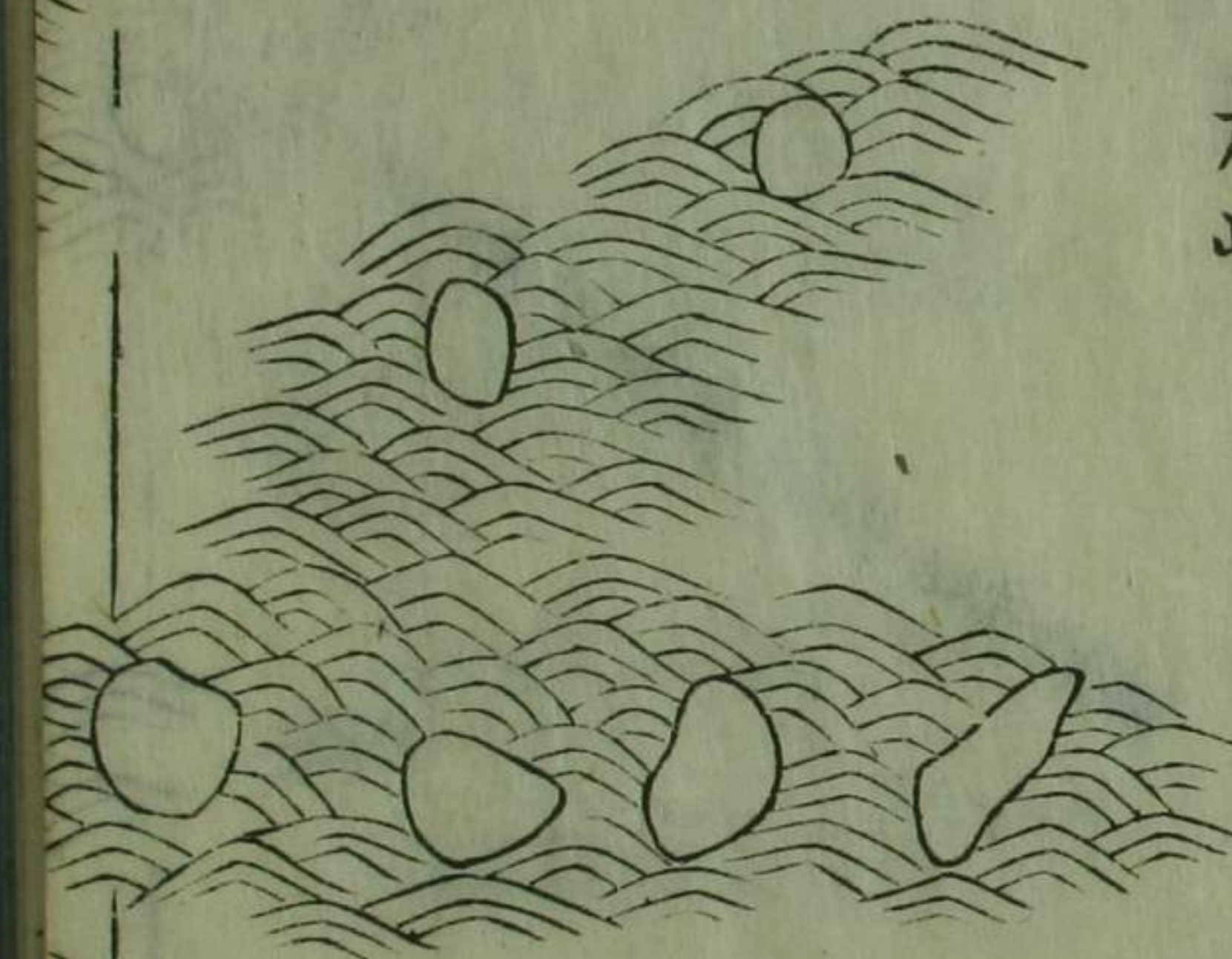


西





人臣言者下



九嶋 自口永良三十里

四十五

(西)



良良嶋

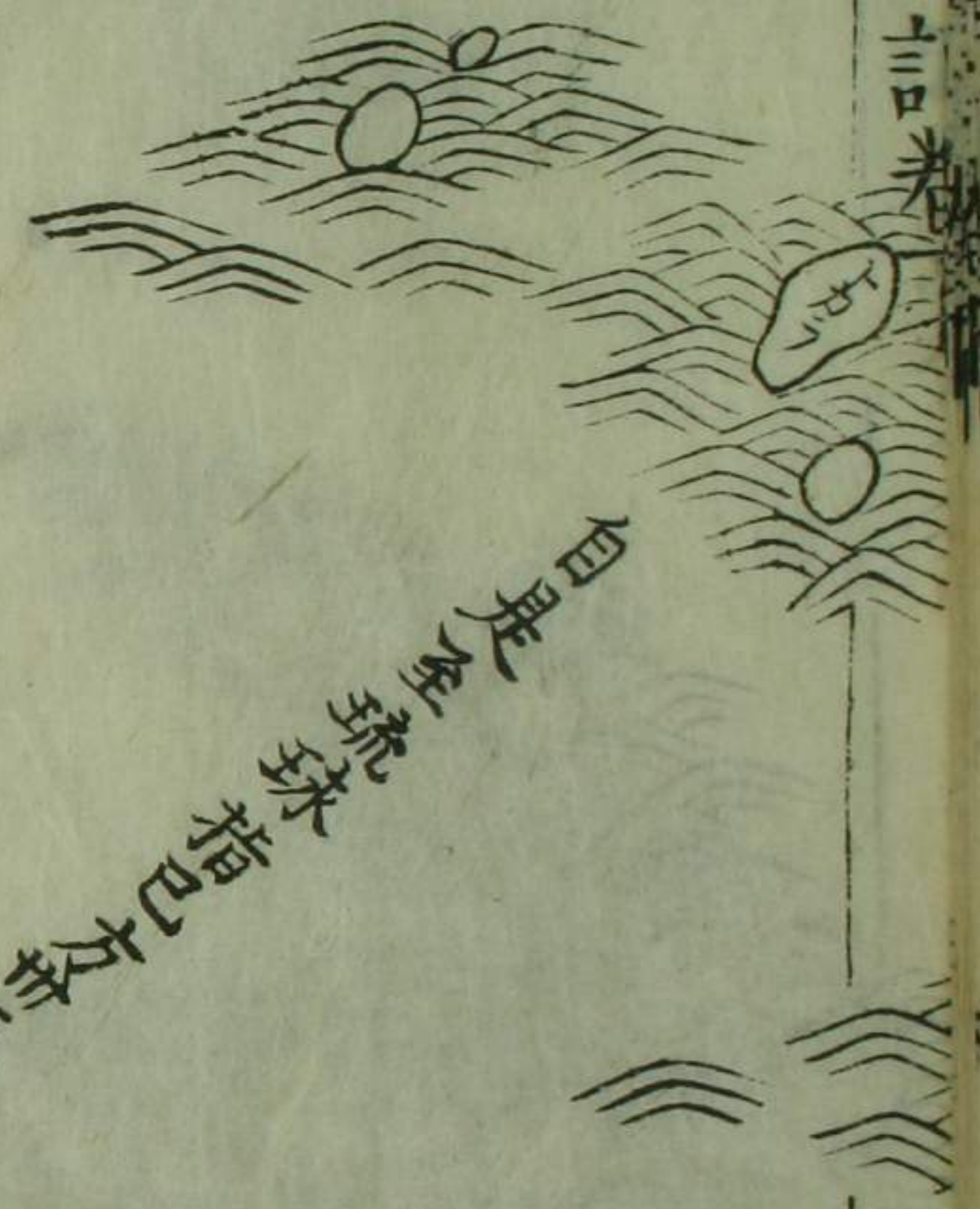
自山溪卅二里

人臣言者下

四十五



西



細井 北緯四十度 東經一百四十度

此處 自日本身三千里

壹岐

當國の風俗ハ遠隔なれども物の産奈なるもの大隅薩  
摩より。さうく海を渡る。人の氣果弱るおちほ。実  
あるおと何んとも。

壹岐嶋圖



北



對馬

當國の風俗壹波と回風多りとそ。

梅に。毛波對を由國とも小肥赤の山の北にあり

たる浦中の海多し因匝皆海あり行も山を毛波

ハ肥洲名古をまきり十三里對馬ハ毛波の勝浦よ

里。早八里乾の牙多り皆北よりなる國ゆへ宜あり。

對馬ハ海を寒國雪あり是より朝鮮へ過路海

航又早八里あり。

對馬嶋圖





人國記卷之下 終

美	俗	國	題
惡	之	家	人
繫	美	之	國
民	惡	理	記
心	風	亂	後
之	俗	繫	和
情	之	風	風



人言後  
偽。民心之情。偽。繫  
人。牧之賢否。是故  
移風易俗。王者所  
以挽回也。嗚呼。風

俗之所繫。蓋大矣  
哉。今此編者。往昔  
述。本邦之風  
俗者也。或曰。副元



帥時賴所著也。顧  
爲其書不能頗無  
疑焉。然非周流海  
內而檢察民情者。

不能若是詳且盡  
矣。方今盛時。風移  
俗化。雖異古昔。民  
情所尚。猶有遺風。



也。蓋民情猶植物。因土地異榮瘁。因灌溉遂其性。是故有北方強。有南方

強。膏土民不才。瘠土民向義。嶮岨幽谷。木直而隘。平原海濱。文辯而放。此



皆風氣水土。所以  
使然也。但其善惡  
厚薄。與時偕變化  
矣。以是觀此。此書

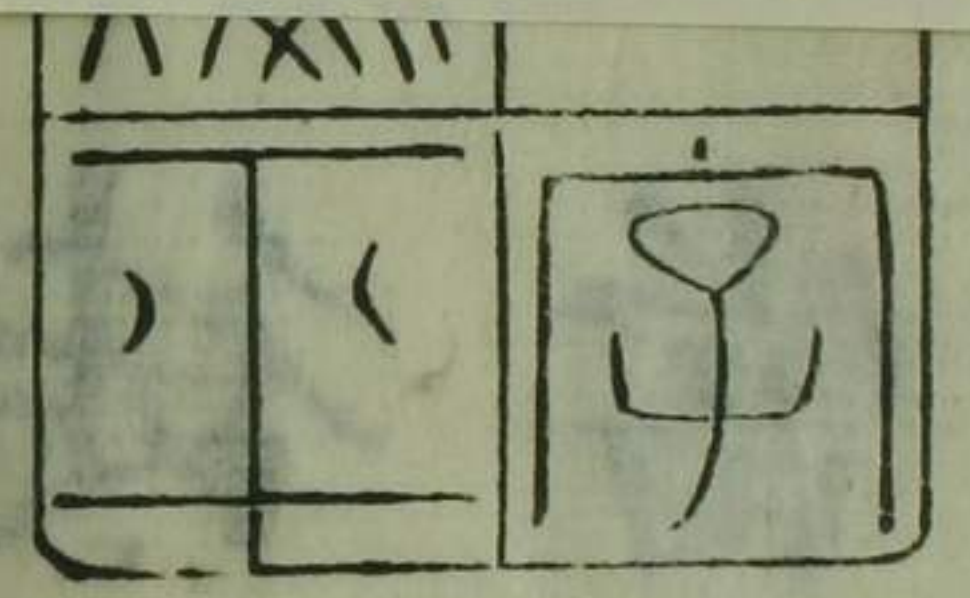
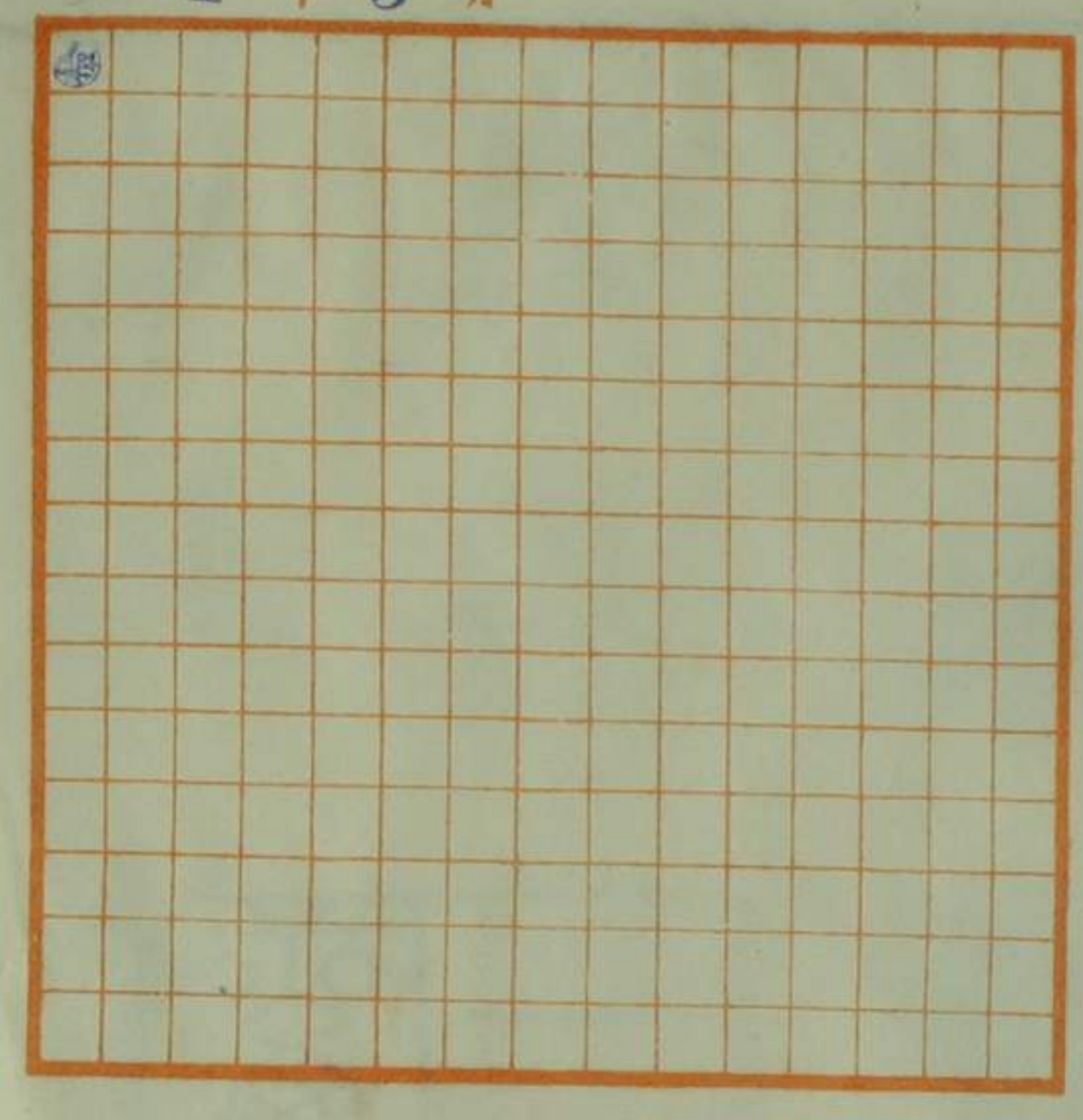
之作。非徒記往古  
之俗。而當以徵當  
世。則盍爲風化之  
規鑒耶。



元祿庚辰端午日

平祖奧

4年3月



水戸儒臣長赤水先生著

改正日本輿地路程全圖

五采分區新增州郡分界文化改刻

北極地ヲ出ルノ度ヲ里程ニ合セ圖面ニ摹寫ノ目ヲヒキ曲尺一分ヲ以テ一里ニテ山岳江河城地鄉村神祠佛閣名勝古跡街道驛亭海路各目標ヲ以テ是ヲ分ツ浦、湊、島、至ルニテ地形方位ヲ正シ彩色ヲ以テ國界ヲ五色ニ分ツ文化間ノ再刻アリ新ニ郡界ヲ分テ大地名ヲ増補善美ヲ尽

元祿十四年辛巳歲官許上木  
文化十年癸酉歲再校發兌

江戸日本橋通壹町目

須原茂兵衛

大阪高麗橋壹町目

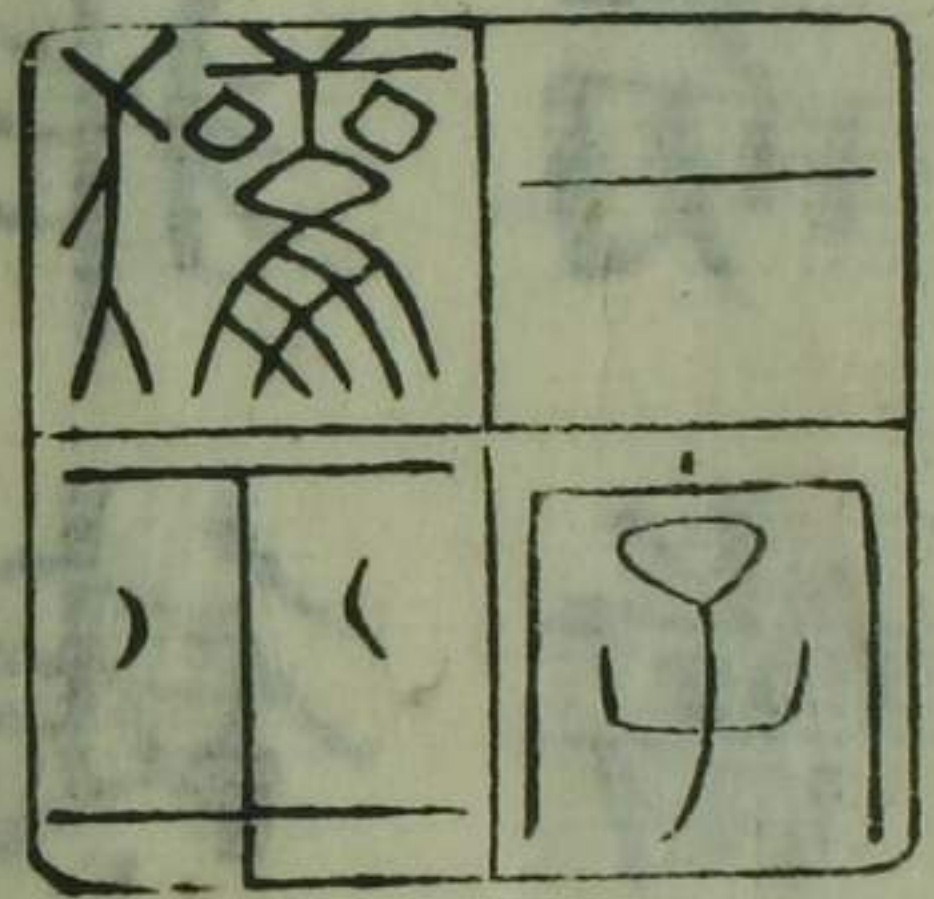
淺野弥兵衛

書賈



元祿庚辰端午日

木齋平祖與



水戸儒臣長赤水先生著  
改正日本輿地路程全圖

五采分區新增州  
郡分界文化改刻

北極地ヲ出ルノ度ヲ里程ニ合セ圖面ニ摹寫ノ自ヲヒキ曲尺一分ヲ以テ一里ニラテ山岳江河城地鄉村神祠佛閣名勝古跡街道驛亭海路各目標ヲ以テ是ヲ分ツ浦湊島至ルニテ地形方位ヲ正シ彩色ヲ以テ國界ヲ五色ニ分ツ文化間ノ再刻アリ新ニ郡界ヲ大ニ地名ヲ増補シ善美ヲ尽

元祿十四年辛巳歲官許上木  
文化十年癸酉歲再校發兌

江戸日本橋通壹町目

須原茂兵衛

書賈

大阪高麗橋壹町目

淺野弥兵衛



